

Saez Cirion 博士、米国 NIH の今道裕美博士及び米国 U.S. Military Research Program の高田比呂志博士、国内から、京都大学の小柳義夫博士及び国立国際医療センター研究所の満屋裕明博士など、幅広い世代の計六名の、第一線のエイズ研究者を招聘いたしました。初日には原田学長、前国立感染症研究所所長の倉田毅先生にも参加いただきました。

セミナーでは、ワクチン、広範囲中和抗体及び血液脳関門を透過する薬剤の開発、潜伏完全、薬剤耐性および合併症等について最新の研究結果が報告され、現状と今後の課題について議論を深める得難い機会となりました。本センターでは現在、ワクチン・中和抗体開発や潜伏感染排除を目指した研究が主となっており、セミナー期間を通じて国内外の関連領域の研究者と密に議論できた事は更なる国際共同研究の推進に意義があると思われ

ます。また本セミナーでは国際共同研究を中心に、研究の更なる推進を目的に開催しておりますが、同時に現在、エイズ領域で求められている次世代若手研究者の育成にも取り組んでおります。今回は一般演題の中から、本学専任以外の教員も含め研究の質を重視して選考し、三名の若手研究者に二十分及び十名の若手研究者に五分の口頭発表の機会を設け、ポスター討論も九十分行い、最優秀ポスターの選出も行いました。招聘者の高田比呂志博士は本センター博士課程の修了者で

ある事から、別途セミナーも行い、学生との交流を図ることもできました。

末筆ながら、本セミナーの開催にご支援いただきました肥後医育振興会の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

第十七回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップを開催して

熊本大学医学部医学科長 尾池 雄一

熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップは、医学教育に携わる大学教員の教育能力を高め、大学の組織的改革を目的として、二〇〇〇年に第一回が開催されて以来、毎年継続されており、今年で十七回を数えることとなりました。ここ数年は、熊本大学医学部医学科の教育成果の作成や、教育方法や学生の評価方法についての検討が行われ、その成果は統合卒業試験の導入などに繋がっています。また、二〇一五年、二〇一六年度は診療参加型臨床実習の充実について議論されており、新カリキュラム下で開始されました臨床実習の実践に寄与しています。

今年度は、二〇一七年十一月二十五日(土)に、「医学教育分野別評価受審に向けて」というテーマで、熊本大学臨床医学教育研究センターにおいて開催され、教職員、研修医、学生、合計六二名が参

加しました。本邦の医学教育では、二〇一七年より全国の医学部・医科大学の医学教育プログラムを国際医学教育連盟

(WFME)の国際基準に則り認証評価する、いわゆる医学教育分野別評価がスタートしています。熊本大学は二〇一九年六月に日本医学教育認証評価評議会(JACME)による認証評価を受審することが決まりました。そのため、今年度のワークショップでは、医学教育認証評価について理解を深めるため、学外講師として京都府立医科大学教授の山脇正永先生にご来学いただき、京都府立医科大学での受審のご経験などをご紹介します。

さらにグループワークとして、午前中に「教育カリキュラム」、午後には「学生の評価」について議論し、自己点検評価書の作成を行いました。グループワークでは、例年に比べて、FDワークショップに参加した学生から積極的な意見が挙げられる等、年々充実したものになってきているのを実感しております。今回の医学教育ワークショップで交わされた議論が、本学の医学教育を改善し、優れた医師の育成として社会貢献につながるものと確信しております。

本ワークショップの企画・運営に尽力頂いております臨床教育研究センターの教職員、また大変ご多用の中、ご参加して頂きました教職員、研修医、学生の皆様に感謝申し上げますとともに、御支援をいただきました肥後医育振興会に心よ

り御礼申し上げます。

